

■ 全体講評

今回実施されたプロジェクトマネージャ全国統一公開模試午後 I の記述式問題は、ほとんどが記述解答の形式の問いで、なかなか手ごたえのある問題でした。全くの白紙の解答は少なく、みなさんきっちり解答できていますが、設問の要求事項や問題文の解答ポイントがとらえにくく、解答しづらい記述式の問いが散見されました。難しいと感じられた方が多かったと思いますが、今回 60 点以上得点できた方は自信をもってよいと思います。得点が芳しくなかった方は解答の要点や表現を見直し、得点を取れるようにする努力を心掛けてください。

午後 I 試験では全 3 問の出題から 2 問を選択解答する必要があります。解答用紙に選択する問題を記すわけですが、きちんと 2 問選んでいない方、丸を付ける欄を間違えて採点欄に丸を付ける方もいました。これは解答以前の問題なのでくれぐれも注意して、指示どおり確実に問題選択することを心掛けてください。なお、漢字の間違いや略字、問題文や設問文と国語論理的にずれた解答が見られました。また、単語レベルで説明不足の解答表現も見られました。特に、設問要求と解答表現がきちんと論理的に合致しているか、注意しましょう。

解答の影や筋が全く見当たらないような難問奇問のたぐいの問題は、本試験では、まず出題されることはありません。したがって、午後 I の記述式問題の解答に当たっては、一般的な専門知識を前提に、問題や設問の意図や説明を十分に理解し解答を導いていくことが求められます。どうしても問題文や設問文に手掛かりが見つからないときにはそこで初めて、一般的知識による解答を考える必要があります。つまり、問題文や設問文に解答制約や手掛かりは必ずあると信じて考えましょう。解答制約や手掛かりを適切に把握すれば、必然的に正解へたどりつくことができます。この手順に誤りがあった場合、例えば、一方的な思い込みや自分自身の特定の経験にこだわると不正解の解答になってしまうので、設問要求や問題の意図するところを読み取り、確実に言えるレベルの表現で解答していくことが重要となります。

正解したつもりで不正解になってしまった場合には、設問要求に沿っていない、問題文の手掛かりやキーワードに準拠していない、問題文の中で客観的に言える範囲を超えている、異常にピンポイントな視点であるという理由が考えられます。その内容自体は正しくても、その問いの正解としてふさわしくないのです。不適切な解答の中で多いのは、解答のポイントや方向性は間違っていないのに、設問の考えや趣旨からずれている解答、要

求事項や指示に従っていない解答と言えます。問題文や設問文に書かれている記述やキーワードは大きなヒントであり、解答の手掛かりの一部であることをしっかり理解した上で、設問要求に沿って適切な表現で解答をまとめるようにしましょう。

また、解答欄に対してボリュームが異常に少ない雑な表現、高度情報処理技術者としてのプロフェッショナル性を疑わせる俗っぽい表現、「そこまで限定して解答できるのだろうか」と感じられる強引な解答表現や、いろいろなことを列挙してどれかが正解に引っかかることを期待するような解答は、採点者に対して心証が悪く、それだけで減点対象となり得ます。結果として正解とならないおそれがあるので注意しましょう。

論文系の区分の午後 I 試験は詳細なその試験区分の専門知識がなくても問題文の文脈と一般常識で解答が類推できる場合も少なくありません。PM 区分でも、受験されたほとんどのみなさんが、何らかのシステム開発プロジェクト業務に携わっていると思われ、直接の PM 経験がなくても、自身の業務経験と合わせて最後まであきらめず取り組み、必ず合格するという強い粘りをもって臨むようにしてください。

<午後 I>

問1 プロジェクトの立て直し

【採点基準】

[設問1]

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 4 点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点。

[設問2]

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し各 4 点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し各 5 点。
- (3) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 7 点。

[設問3]

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 7 点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 8 点。

【講評】

定型処理の自動化システムの要件定義に関する問題でした。プロジェクトの環境や状況をとらえ、問題文の文脈や設問の趣旨をよく踏まえて解答する必要がありますが、表現が揺れやすくかなり難しかったと思われます。選択した方は多かったのですが、なかなか得点を伸ばせない状況が伺えました。

設問 1(1)は、スケジュールを厳守することが解答要点です。この点を明示的に示さないと不正解としています。手戻りを防止する旨も正解としました。表現が甘い場合、2点としました。過去の経験があったことだけでは不正解にしました。今回のプロジェクトでどうなのかを解答しましょう。(2)は「半年前の組織再編のリスク」が解答要点です。この点につき適切に表現する必要があります。

設問 2 の(1)は、解答要点をしっかり押さえて解答する必要があります。プロフェッショナル性に欠けるピンポイントな解答が目立ちました。(2)も同様な状況ですが、(1)よりも正答率が高かったと考えます。(3)は、「要件の整理」、「優先順位の決定」を押さえて正解としています。

設問 3(1)は、適切な要件の洗出しを表現して正解にしています。(2)は総務部と営業部の要件から円滑にプロジェクトが進む趣旨に対しては4点としています。

この問題は、解答表現を絞るのが困難で得点が伸びなかったようです。解答の根拠を明確にしていくことが特に求められます。

問2 ステークホルダ・マネジメント

【採点基準】

[設問1]

解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し各6点。

[設問2]

解答例どおりだけ各4点

[設問3]

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し5点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対しステークホルダは4点。どのようなときは5点

[設問4]

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点。

【講評】

ネット予約システムの再構築を題材にしたステークホルダ・マネジメントに関する問題でした。本問は、記述でない解答を含んでいるので取り組みやすかったようで、比較的多くの方が選択しています。本問は解答要点や設問要求の意味をしっかり把握して解答すれば高得点も可能です。ただし、問題文に従って、その文脈できちんと解答しないと得点が伸びないので、適切な解答を確実に探していくことが求められます。

設問 1 は、「D 社の作業の記述」が要点になります。このポイントを押さえて正解としています。

設問 2 は、「セイリエンスモデル」を解析する問題です。馴染みがなく面食らった方もいたように思いますが、落ち着いて考えれば正解できます。完全に正解した方も少なくなかったです。

設問 3(1)は、PM 問題で問われる頻出の観点の問いでした。正答率が高かったと思います。(2)はここで定義されているステークホルダは4名であることをしっかり押さえて解答しましょう。

設問 4 は、変更の手续に気を取られた方が多かったです。この点については問題文に脈絡がなく要求されていないと判断すべきです。あくまで判断の内容や根拠について解答するようにしてください。

問3 リスクマネジメント

【採点基準】

[設問1]

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点
- (3) 指摘したリスクは、解答例どおりだけ5点。深掘が足りない点は、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し5点。

[設問2]

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し5点。
- (3) 解答例どおりだけ5点

[設問3]

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点。

【講評】

リスクマネジメントの一連のプロセスに関する問題でした。よく問われる観点で構成されていて、一部解答表現を考えにくい問いも見られましたが、比較的適切に解答できています。要求されている解答が何かをよく考え解答表現する必要があります。

設問 1(1)と(2)は、解答要点を適切に表現できていれば正解です。(1)の方は、正答率が高かったと思います。(2)は少し考えにくかったかもしれません。(3)は「プロジェクト目標への影響」を押さえて正解としています。

設問 2(1)は、「今回のプロジェクトの考慮漏れ」が解答要点となります。この問いは比較的正答率が高かったように見受けられます。(2)、(3)も正答率が高かった方が多かったように思います。

設問 3(1)は、「画面設計の整合性」と「後の手戻りリスク」が解答要点です(2)は、設計の不手際について解答します。リスク因子である「生産管理ノウハウが継承されない」ことを指摘した場合は3点としました。

記述式の解答では、設問要求や問題文を踏まえて「問われていることを客観的に確実に言えるレベルの表現で」解答をまとめることが大切です。極端にピンポイントな解答は避けましょう。くれぐれも自分の単純な感覚や経験で解答しないように注意してください。

また、解答表現としては、俗っぽい表現や稚拙な表現は避けて、よりプロフェッショナルな表現を心掛けてください。そうすることによって、採点者の心証が良くなり、得点力を高めることができますし、解答の実力を養っていくことにつながります。

なお、どの問題を選択するかは合格するための重要な要素です。3問から2問選択ですので、言い換えると「どの1問を捨てるか」ということになります。一見、解答数が少ない問題が楽そうですが、解答数が少ない分、配点が高いので得点率の変動が大きくなります。有利とは言えませんので、安易な問題選択は避けた方が無難でしょう。実際の問題の難易度は取り組んでみないと何とも言えませんが、問題文のテーマやドメイン、設問文の解答のしやすさなどを目安に迅速かつ適切に問題選択を行うようにするとよいでしょう。

以上